

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2792000073		
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター我孫子 (1階あすなろ)		
所在地	大阪市住吉区山之内1丁目20番4号		
自己評価作成日	平成24年12月12日	評価結果市町村受理日	平成25年4月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku_ip/27/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&jiyosyoCd=2792000073-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成25年2月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホーム理念の「地域の中で明るく穏やかに暮らす家庭」を実行すべく、南向きの明るく暖かい日差しの中で、入居者様とスタッフが家族のように笑ったり、時には口論も繰り広げる楽しい家庭です。ご近所様も気軽に声をかけて下さり、地域交流として小学生の訪問、卒業式への参加、敬老会への参加、地域イベントへの参加と出店、地域ボランティアの訪問など地域の一員として暮らしています。また恒例になった花見、温泉旅行、夏祭り、花火大会、地域の祭りへの出店、紅葉狩り、スタッフのかくし芸が楽しいクリスマスなど、春夏秋冬それぞれの季節にあったイベントを企画、実行しています。普段の生活は、毎日近所のスーパーへの買物、調理、洗濯など入居者様の能力に応じた役割を持って行なって頂いています。食事は入居者様、スタッフと一緒に楽しみ、特に鍋料理は大好きでみんなで鍋を囲んで楽しんでます。クラブ活動、スタッフによる勉強会、研修などを通して質の向上を図り、入居生活7年目を迎える入居者様の高齢化、重度化に対応し、家族様たちの希望である終の住まいに対応すべく取り組んでいきたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

行政や地域住民が一体となって、福祉の街づくりを目指している地域の中で、当ホームも地域で果たせる役割がないかを模索し、買い物は地域を利用するなど積極的に地域へ出向き関わる事で、地域住民との交流の場が広がり、地域の中にホームが根付いており、地域で安心して暮らせる普通の生活ができるように支援しています。外出する機会を多く作る事で利用者の笑顔も見られ、日常生活の場面では、食事の時間や入浴の場面も常に利用者のペースに寄り添い、待つケアを大切にし排泄の自立に向けた取り組みも積極的に実践しています。家庭的な雰囲気の中で利用者と共に笑い合い、利用者が言いたいことを言える環境を作りながら、出勤した際は「ただいま」、帰る際は「行ってきます」と家族のような関係が築かれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	※お客様と共につくる明るく穏やかな家庭 ※お客様との気持ちの共感 ※待つケア のホーム理念を掲げ、お客様たちが安心して楽しく穏やかに暮らせる環境作り(家庭)を目標としている。	職員と考え作られたホームの理念は、朝のミーティングや会議の際に理念に添ったケアが実践出来ているかを振り返っています。日々のケアは、待つケアを大切に利用者のペースで生活が出来るように見守り、寄り添いながら支援しています。また地域との関わりについても意識しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	衣、食、住は現地調達を原則とし、毎日の買物はお客様と一緒に、近辺の店舗で賄い、地域との交流を図っている。地域の連絡会や町会等に加え地域行事(運動会・敬老会・卒業式など)に参加、またホームの畑の収穫物を近所に配ったり、区から花の苗を頂いたり地域の中で一般の家庭と暮らしている。	ホーム主催の夏祭りに、子どもたちを含め多くの地域の方々が訪れ交流しています。町会の運動会や小学校の卒業式、地域が取り組む防災の訓練等、地域の催しには積極的に参加しています。また地域の方も気軽に寄って行かれるなど、ホームが地域に溶けこんだ存在となっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域ボランティア主催の(ふらっと楽しむすみよし)、山之内施設連絡会に協力、実行委員として地域の人たちの相談などの地域貢献を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の運営推進会議においては、入居者様の状況、スタッフの状況、事故とヒヤリハット、サービスの報告、今後のサービスの報告などを行い、委員会役員様たちからの助言、意見などを聞き、またいろいろな情報をアドバイスして頂きサービスの向上をはかっている。	利用者や家族、町会長、民生委員、社会福祉協議会・地域包括支援センター職員等の参加の下部6回開催しています。ホームの活動を報告し、地域の情報が得られています。薬についてや法の改正について等、質疑応答を行い、検討課題は次回会議の懸案事項として取り上げ有意義な会議となっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期的に訪問し事業所の取り組みなどを報告して、その都度適切な指導、協力を頂いている。また区、町の取り組みに協力し実行委員を務めたり、模擬店を出店したりの協力をしている。	区へは定期的に訪問しホームの実情を伝えていきます。2～3ヶ月に1回行われる区が中心となった事業所連絡会に参加し、各事業所や医師・薬剤師等を含めたグループワークも行われ、区全体の情報や状況が得られる機会となっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、スタッフ全員理解し、勉強会等で話し合い、絶対しない方針で実行している。玄関などにも施錠などせず、自由に行動しそれに応じた柔軟な支援ができる様にしている。	身体拘束をしないケアの実践に向け、年1回の会議や毎月のホーム会議、申し送り時等に話し合い、周知するようにしています。ケアの場面は、その方のペースに合わせ、待つケアの対応を心がけ、不適切な対応があれば注意し合っています。玄関はセンサーを付け、ユニット入口も施錠せず、自由に出入りが出来るようにしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関しては、しない、見逃さない、注意し合うを合言葉に防止策を学び、話し合いを繰り返している。特に日常会話の中で、起きる可能性の高い言葉の虐待には、スタッフ一人ひとりが、お互いを見つめあう方向で阻止している。		

ニチイケアセンター我孫子（1階あすなろ）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者様の中にも、後見人制度を利用しているが居るので身近で学び、活用の必要性を理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約などの説明はゆっくりと読みあわせを行い、疑問点については、すぐ説明できる内容であれば説明し、即答の出来ない様な内容であれば調べ、納得して頂けるようにしている。また不安、疑問を話し易い環境作りを心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	会社が実施する「顧客満足度アンケート」で家族様の要望、意見、苦情などをホーム会議で話し合い、運営に反映している。また家族様が気軽にスタッフ、管理者に話せるような環境作りを心がけている。玄関に意見箱を設置しているが、家族様からは直接話すほうが良いと言って下さるので活用できていない。	面会時や家族会、運営推進会議、法人アンケートなどで意見や要望を聞いています。家族から遠慮から「言いにくい」との意見を受けて、職員は家族の心情を察して、言葉遣いや対応を振り返りながら、話しやすい雰囲気作りを行うなど、意見を真摯に受け止めサービス向上に活かしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回以上のホーム会議、また日々の申し送り時に時間を多く取り、意見交換の場にしてスタッフ全員でホームを運営しているんだという自覚を持たしている。最近では2階廊下にあるホワイトボードを利用し自由に書ける「落書きコーナー」を設けている。	月1回のホーム会議は、全職員が参加して意見交換を行い、日々のミーティングは、時間をかけて意見や提案を聞くように努めています。また、ホワイトボードに意見を書くコーナーを作り、いつでも提案できるよう工夫をしています。また年2回、個人面談を行っています。職員からは業務上の意見も出され、出された意見は、前向きに進めるよう話し合い、運営に反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々のスタッフの努力、実績、勤務状況を把握し、やりがいを持って勤務できる様、職場環境の整備に努め、向上心を持って勤務できる様取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修、社外研修などへの参加を推進している。またホーム内の勉強会においては、各委員会に持ち回りのリーダーを決め、各委員会主催での発表の場を設け個々のモチベーションを向上させるよう取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の介護サービス研修を通して、他事業所のスタッフ等との交流の機会を持てるようにしている。本年度より社内ホーム間のスタッフ交流を図る為合同研修をおこなっている。		

ニチイケアセンター我孫子（1階あすなろ）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居依頼時より、本人、家族様の要望に応じれるよう何度も意見を聞く機会を設け、収集した要望などをスタッフと話し合い、入居時の環境の変化による不安感の解消に努め早期に安心して穏やかに暮らせる環境を確保できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の入居に関しての不安や悩みについて、ゆっくりと聞き安心してご入居できる様配慮して、家族様の要望に対して受け止め信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状況、家族の希望などをサービス開始時に見極め早期に必要なサービスを提供している。 身体的には健康管理、行動的にはリハビリなどに往診医、訪問看護、リハビリ外出支援、訪問歯科などを利用している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者様と家族としての環境を作り、共に暮らす家族として一緒に考え、一緒に行動し気持ちを共感して行けるように努めている。食事と一緒に同じものを食べ、時には口論もできる環境で、退社の折、淋しくならないよう「行ってきます」「ただいま」を挨拶にしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様の近況を毎月発行の「ほほえみ便り」でお知らせし、家族様と一緒に支えて行けるようにしている。また本人様の思い、家族様の思いをスタッフも共に共有し支援しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場所との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣の入居者様も多くいるので、家族様などの面会だけでなく、買物や散歩の折にも、なじみの方に会ったりして交流が途切れないようにしている。また朝食を喫茶店のモーニングサービスを利用したり、公園でお茶を楽しんだり地域との関係が継続できるようにしている。	友人や知人の来訪時に、お茶を出しゆっくり過ごしてもらえるよう配慮しています。利用者の馴染みの公園や喫茶店、スーパーへ買い物に出かけたり、以前通っていた近所の接骨院への受診や、利用していたデイサービスへ出向くなど、慣れ親しんだこれまでの人や場所との関係が継続できるように支援しています。また家族と墓参りや自宅にいたり、旅行や外食にも出かけています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の会話の仲立ちをしたり、クラブ活動を行いみんなでおやつ作りをしたり(調理クラブ)、ホーム周りの清掃をしたり(クリーンクラブ)、生け花を楽しんだりと作業を通じて入居者様同士が係わり合い、孤立しないよう支援している。		

ニチイケアセンター我孫子（1階あすなろ）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も家族関係が断ち切られることの無いように、気軽に立ち寄って頂ける環境を作っている。退去2年経った家族様がボランティアで毎月来て頂けています。またホームイベントにはお誘いの連絡をしています。介護に関する相談にも支援しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様一人ひとりの意向を尊重して、安心して穏やかに暮らして行けるよう支援しています。本人のケアに困難な事態が生じて、対応や行動を把握し、スタッフの思いや木づきをプランに活かし実行している。	入居に際に利用者・家族から生活歴・趣味・嗜好など聞き、アセスメントした事を記録し職員間で共有しています。入居後は、職員と生活を共にする中で、気付いた事や情報等を日々記録し、担当職員が中心となり思いや意向の把握に努めています。困難な時は、表情やしぐさ、昔の話をしながら、その時々様子から思いを察するように心がけ、家族からも聞くようにしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を利用して、本人の生活歴を把握し、できる限り馴染みの暮らしを継続できる様努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人らしい暮らし、持っている能力を持続していけるような支援をしている。個々の暮らし方を重視し、団体生活をしているような暮らしでなく、その人なりの一日の過ごし方を把握し支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人本位を基準として、家族様の意向を取り入れたプランの実行を心がけている。スタッフを担制にして、気付きをセンター方式方式を利用してアセスメントを行って、モニタリングを行い、穏やかで楽しく役割を持って暮らせるよう、必要な関係者とも話し合い介護計画を作成している。	利用者、家族の思いや申し送り、カンファレンスの中で、職員の意見を聞いて一人ひとりに合ったケアプランが作成されています。プランに沿って定期的にアセスメントを行い評価し、カンファレンスを開催してプランの見直しをしています。必要な場合は医師や看護師の意見も聞いています。また、記録も工夫し、ケアの中で変更の必要があれば随時見直しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活は介護記録、健康管理は健康チェック表、往診記録、訪問看護記録などの個人記録を医師、家族、スタッフ間で情報を共有し、ケアの見直しや介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族様の面会時の希望に応じて、宿泊、食事提供など柔軟な対応ができる様にしている。またサービス外の本人、家族様の要望に対しても支援できる様取り組んでいる。		

ニチイケアセンター我孫子（1階あすなろ）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの利用や、公共機関（電車・図書館など）への協力依頼をしたり、町会の掲示板を利用しての催しへの参加など多様にわたり地域資源の利用、協力をお願いしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	開設以来の往診医との信頼関係を維持しており、24時間体制にて緊急時の対応、2週間毎の定期往診、必要時の往診と相談などを行って本人、家族様が安心して暮らせるよう支援している。	入居時にかかりつけ医の希望を聞き、希望のかかりつけ医による往診や職員、家族が一緒に行く場合もあります。協力医による週2回の定期往診があり、24時間連絡が取れる体制となっています。訪問看護師は週1回訪れ、健康管理や処置を行い、医師との連携を取られています。訪問歯科は、必要な方や希望者が受診や往診を受けるなど、適切な医療を受けられる支援をしています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制をかかりつけ医と連携しており、週1回の訪問看護師による健康管理を行っている。訪問時スタッフがケアの中での気づきや情報を伝え、適切な対応ができる様支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は食事介助や洗濯、話し相手など面会の機会を多く持ち、家族様の意向や相談に応じ、医師からの容態説明、退院後の医療相談などを、かかりつけ医、看護師などと連携し早期退院を行えるようにしている。また近隣病院への定期訪問により信頼関係を保っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に医療連携は取っているため、本人様の苦痛がなく医療処置も在宅並みにしか行えないが、その点を汲んで家族様の希望があれば看取りも可能であることを説明している。これまでも看取りの経験もありスタッフも方針には共感している。現在、入居者様の高齢化、重度化が進んでおり、その立場におかれた家族様には再度意向を聞き本人にとって最良の方針を検討している。	重度化や終末期について、ホームで出来る事、出来ない事等、ホームの方針を説明しています。早い段階から利用者・家族の思いを聞き、職員間でも話し合い、医師、看護師の意見を聞きながら出来る限り支援をしています。これまでに看取りの経験もあり、職員は支援の方法や不安解消の勉強会を重ねて取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム内勉強会（誤嚥時対応）や救急隊による救急救命講習を定期的に通い基本的な初期対応を学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防署の指導の下、初期消火と避難訓練を行っている。防災マットをホーム内に掲示して、避難場所を常時確認できるようにしている。災害時用の食料、水、防災セットを常備して、毎月点検している。地域の防災訓練にも参加し、非常時ホームへの協力をお願いしている。	年2回消防署の参加を得て、特に夜間を想定した訓練を実施しています。重度の方の避難誘導の仕方や利用者の状況に合わせた避難方法の訓練を行っています。地域の防災訓練に参加し、災害時の協力を求めたり、隣接の施設とも助け合う関係を築いています。地域住民への参加も呼びかけています。	

ニチイケアセンター我孫子（1階あすなろ）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居時取り交わす契約書に示す「高齢者の尊厳と自立を守る」はホームの精神であり、家族であるという立ち居地をとっているが、尊厳を持って敬語での声かけを基本としている。ただ名前の呼びかけには、親しみと本人の希望などにより、姓、名と個々呼び分けている。	入職時の研修や、法人のプライバシーについての研修会に全職員が参加し、ホーム内の勉強会で利用者への言葉遣いや尊厳を守るケアについて周知するよう努めています。不適切な対応や言葉遣いがあれば注意し合うようにしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の過し方、食事や飲み物、その日の服装など本人の好み希望に応じた選択や思いを出来る限り反映している。ホーム理念の「待つケア」を実行し、急ぐことなくゆっくりと聞き、意思表示をして頂けるよう配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様のペースに合わせて、入居者様の希望に沿って暮らして頂けるよう、ホームの日課を作らず、スタッフの業務流れもなく、毎日の入居者様の希望、状態によって支援を行って行けるよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着衣や髪の流れや衣類の汚れ、しみに気をつけ清潔感のある服装をして頂いている。また外出の機会が多いのでその時々に応じた、お洒落をして頂き、薄化粧などをすすめ楽しめる様支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日のメニューは決めておらず、毎日一緒に買い物に行き食材を見てメニューを決めている。食事作りは個々の能力に合わせて下ごしらえや盛り付け、片付けなど役割りを決め行っている。食事時はスタッフも一緒にテーブルを囲み、味付けや雑談を音楽を聴きながら賑やかに食事を楽しんでいる。	食材を見てその日の調理担当が、利用者の食べたい物を聞いてメニューを決めています。買い物は地域を利用し、利用者と一緒にしています。包丁を使って野菜を切ったり、おにぎりを握ってもらったり、食器洗い等の出来る事してもらっています。毎月外食に出掛けたり、全員で喫茶店でモーニングを食べ楽しんでます。職員も一緒に同じ物を食べ家庭的な雰囲気を大切に支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	トロミ食、ミキサー食、刻み食の提供者が居たり、カロリーを制限したりと個々の状態に応じた支援をしている。水分量は1日1000cc以上を目標としている。毎月体重測定を行い体重の増減などを医師、看護師に報告し栄養管理を行なっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを介助、声かけ、誘導など一人ひとりの能力に応じた支援方法にて行っている。また拒否が強く介助が困難な方には訪問歯科医による口腔ケアにて清潔保持を行っている。		

ニチイケアセンター我孫子（1階あすなろ）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はトイレでの排泄を促し、排泄の自立支援を行っている。個々の残存能力、排泄パターンを把握し、尿意のない入居者様にも時間毎の誘導で自尿を促している。	個々の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を目指し支援しています。夜間に紙パンツを使用しても日中は、布パンツで過ごしてもらい、声かけや誘導を行い待つケアを心がけ、その方に合わせた対応をしています。布の下着に変わった方も多く、利用者の自信につながっています。車椅子の方や、立位、立ち上がりに不自由があっても、トイレで排泄が出来るように支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	植物繊維の多い食事、バランスの取れた食事を提供し便秘の解消に努めている。便秘傾向の入居者様には医師、看護師との連携により、食事内容、水分量などから原因を追究し対策を考え、実行している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々のペースに合わせてゆっくりと入浴を楽しんで頂いている。毎日入浴を原則としているが、拒否の強い入居者様には誘導方法を話し合い、共有している。入浴時間も午前、午後をとわず、好きな時間に入れるよう配慮している。本人の体調管理を行いながら、湯船に入る時間は出来る限り本人の希望に沿ってゆっくりと見守っている。	基本的な曜日や時間帯は決まっていますが、その日の利用者の入浴したい気持ちを大切にしています。毎日入浴されている方や、朝風呂を希望されるには希望に添った対応をしています。拒否される方には、タイミングを見て声をかけるなどの工夫で入浴してもらっています。重度の方も二人で介助し湯船に浸かってもらい、ゆっくりと入浴を楽しめるように支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠剤は一切使用せず日中の生活環境を考え、運動量、入浴時間、入眠前の飲み物など検討して共有している。無理な入眠は強要せず、本人の意思を尊重し本人のペースにあった睡眠ができる様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬にはスタッフは薬剤師による勉強会に参加、副作用、用法などを理解し助している。誤薬対策としては何重にも服薬チェックと薬剤師による分包、配置方法などを検討し事故を防止している。体調変化の時は医師、薬剤師に即、相談できる体制をとっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で、今までに培ってきた経験や、生活習慣が活かせるよう個々にあった役割を、スタッフが教えて頂いたり、叱られたりしながら一緒に行っている。花畑や野菜作り、散歩など日々希望に沿い支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日はほぼ毎日散歩や買物外出をしている。また最近では朝食を喫茶店でモーニングサービスを利用したり、郊外の公園に電車を利用して行ったりしている。昼食は入居者様全員が大好きな回転寿司、レストランへ月何回かは出かけています。恒例の日帰り温泉旅行は全員の楽しみの一つです。	天気に関係なく、ほぼ毎日外出をしています。買物や散歩以外にも季節毎の花見や初詣に行ったり、喫茶店や外食に行くなど日常的に戸外に出かける支援をしています。電車に乗ってや車椅子を押しての外出、観光バスを使い遠出の日帰り温泉、地域のイベントへの利用者と参加しています。また個別でも買物などの対応をしています。	

ニチイケアセンター我孫子（1階あすなろ）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームの原則として個人がお金の管理は出来ないのですが、ホームでお預かりしているお小遣いを、買物の折持って頂いて本人の財布で買物をして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人、家族様の希望により手紙や電話の取次ぎなどの支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には生け花を、リビングには観葉植物を置き水やりは入居者様たちが行っている。南向きのリビングは日差しが眩いばかりで、冬でも暖房が要らないほどの暖かさです。天気の良い日はテラスであしたばさん(2階)も呼んでお茶を楽しんでいます。テラス前の道路では夕方になると子供たちの元気に遊ぶ姿が見え、時々ボールが飛び込んで渡してあげるのも楽しみの一つです。スタッフは楽しく穏やかに暮らせるよう配慮し、あしたば(2階)の入居者様にもテラスで楽しめる様支援している。	玄関に生花を活け、壁に季節のちぎり絵の作品を飾り、雛人形を和室に置くなど季節感が感じられるようにしています。日当たりの良いリビングは明るく、採光の調節はカーテンを使い、加湿器や空気洗浄器を置き、温度や湿度を管理し、居心地の良い環境となるように努めています。テラスでお茶を楽しみ、リビングでは食事の匂いが感じられ、家庭的な雰囲気の中で過ごせるように支援しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのテーブル席は、座る場所は指定しておらず一人ひとり自由に座って、お喋りしたり本や新聞を読んだり、テレビを見たりしている。スタッフは孤立しないよう気を配り穏やかに暮らせるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の居室には入居時、新しい家具などを用意しないで今まで使っていた物を持ってきて頂いている。女性の入居者様には鏡を男性の方には使った座椅子などを持ってきて頂いています。またベッドの嫌いな方には畳に布団を引いて毎日スタッフと上げ下ろししています。	クローゼットは備え付けですが、利用者一人ひとりに合った居室で暮らしてもらえるよう、馴染みの品々の持ち込は自由であると伝えています。利用者は使い慣れた鏡台や時計、ベット、寝具、テレビなどを持ち込まれ、大切にしているお位牌や家族の写真も飾られ居心地良く過ごせる居室となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内では歩行困難な入居者様も車椅子ではなく手引きにての歩行を促せ介助しています。スタッフ見守りの中手すりを利用しての歩行練習をしています。なかなか歩いて頂けない方もいらっしゃるなので、廊下にお散歩レース表を貼りレース結果を発表してやる気を出せるよう支援しています。		